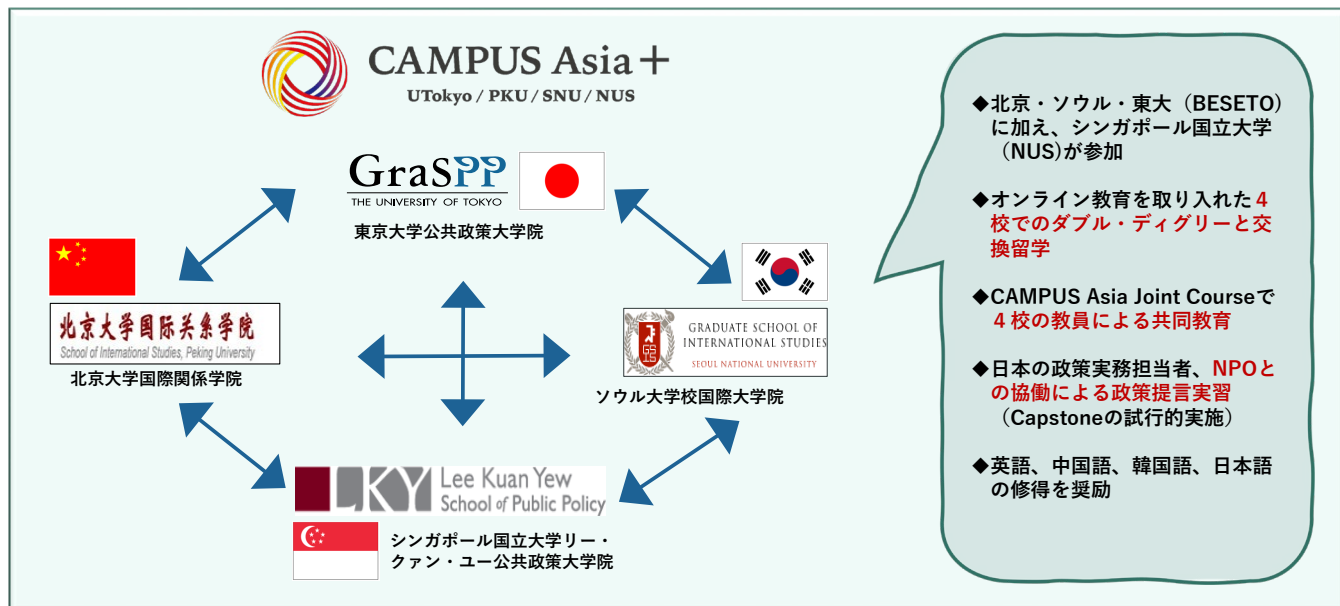


大学の世界展開力強化事業(2021年度選定) 東京大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2021年度・(タイプA①))

アジアの国際関係・公共政策: DD、交換留学、オンライン教育のためのBESETO + NUS共同教育基盤形成

【交流推進事業の概要】



【交流プログラムの概要】

2011年より取り組んできた北京大学国際関係学院、ソウル大学校国際大学院との3方向ダブル・ディグリー&交換留学を柱とする日中韓交流に新たにシンガポール国立大学リー・クワン・ユー公共政策大学院を加え、さらなる教育連携プログラムの深化、アジア地域に立脚したトップクラスの人材育成を目指す。

【本事業で養成する人材像】

公共政策や国際関係の分野において、参加学生が高い問題意識や、グローバルな課題に多角的な視野を持ち、その解決を図ることができる能力を獲得できる場を提供し、将来の東アジアのリーダーとなりうるグローバル人材を養成することを目的とする。

【本事業の特徴】

- ◆ 北京・ソウル・東大(BESETO)に加え、シンガポール国立大学(NUS)が参加
- ◆ オンライン教育を取り入れた4校でのダブル・ディグリーと交換留学
- ◆ CAMPUS Asia Joint Courseで4校の教員による共同教育
- ◆ 日本の政策実務担当者、NPOとの協働による政策提言実習(Capstoneの試行的実施)
- ◆ 英語、中国語、韓国語、日本語の修得を奨励

【交流予定人数】

		2021	2022	2023	2024	2025
派遣	実際に渡航する学生	0	0	7	9	9
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	6	6	3	3	3
	実渡航とオンライン受講を行う学生	7	4	0	0	0
受入	実際に渡航する学生	0	0	10	11	11
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	11	0	1	1	1
	実渡航とオンライン受講を行う学生	1	12	0	0	0

1. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【東京大学】

【事業の名称】(採択年度 令和3年度)

アジアの国際関係・公共政策:DD、交換留学、オンライン教育のためのBESETO + NUS共同教育基盤形成

■ 交流プログラムの実施状況

本プログラムは公共政策・国際関係分野における大学院レベルの学生交流であり、単位取得を伴う交換留学(3か月以上6か月未満)、学位取得を伴うダブル・ディグリー、オンラインによる科目等履修とその他の交流との組み合わせを主な柱とする。東京大学公共政策大学院の相手校は北京大学(PKU)国際関係学院、ソウル大学校(SNU)国際大学院、シンガポール国立大学(NUS)リー・クワンユー公共政策大学院である。モード2からモード3への端境期にプログラムが途切れることによって、すでにプログラムに参加中あるいは参加することが確定している学生の学習計画に不利益が生じないよう、参加大学間で協議の上、派遣・受入を継続した。2021年度は新型コロナウイルス感染症蔓延による渡航制限のため、実渡航が出来た学生は少なかったものの、オンラインによる授業を履修し、論文指導もオンラインで受ける体制を継続させた。



CAMPUS Asia+
UTokyo / PKU / SNU / NUS

〈新ロゴ制作〉

4校教職員・学生の投票により決定

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

中国への派遣1名(EX1名、DD0名)
韓国への派遣3名(EX3名、DD0名)

○ 外国人留学生の受入

指定期間における該当者なし

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	13	4
学生の受入	12	0

※計画は交付決定前からの実施分を含むが、実績は交付決定後の2021年12月22日～2022年3月31日の間の実施分をカウント。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本学とNUSとのバイラテラルによるダブルディグリーと交換留学の実績をベースとして、PKU-NUS、SNU-NUS間でも今後の学生交流開始に向けた交渉を開始した。また、参加校全ての間でダブルディグリーを実施できるようプログラムを設計することにより、単位認定や学位授与のプロセスを可視化し、質の保証を伴った難易度の高い学生交流を可能にする土台作りを開始した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

コロナ禍の対応として、本学では旅行業者と契約し空港から自主隔離施設への移動、宿泊施設の確保など入国後スムーズに日本での生活を開始できるようサポートを行い、派遣する日本人学生には情報提供を行った。また、本大学院では、留学生担当職員3名が常に最新情報を確認し、学生の早期入国のための申請、ビザの手配や本学の学生寮などへの代理申請、オンライン授業となつて心身の変調を訴える学生などの相談に乗っている。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開、成果の普及

日中韓の未来志向の協力やASEANとの連携に向けたグローバル・リーダーの養成は、本学が果たしうる重要な国際貢献であると考えている。そのため、日本人学生の確保と本プログラムの周知活動に力を入れている。主に4月入学の日本人学生を対象として、ハイブリッド形式のプログラム説明会を計画・実施し、2022年度の参加学生の選抜を行った。

■ グッドプラクティス等

2022年度「CAMPUS Asia Joint Course」開講に向けた教育内容の拡充に取り組んだ。修了生の協力を得て地方自治体との協働によるソリューションベースの授業や、中央省庁の官僚と学生とのグループワークなど、新たな試みを企画している。また、コロナ禍でのオンライン授業における対面での交流不足を補い学生の不安を取り除くため、担当教員が学生一人一人と面談を行い自由に話してもらおう機会も設けた。



〈2月3日実施プログラム説明会ポスター〉